可笑記　巻一

京
4
295

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

ガラス使用

可笑記

壹

京
4
295

東京圖書館
門 珍
類
函 京
架 一〇
號 二九〇
冊 四

国立国会図書館　タイトル『可笑記』 請求記号 京-295

ガラス使用

№ 21403/2

可笑記　愚序

或ひまなる人の独言に、寄特なる生と念じ、出家時の心をかきおかれき
心のあらうき川にもむまれ、いとし、積源より
あまりて玉瀾をさかしふる事あれ、讒言入、軸と
もやとるゝ世の波よせてくるふ、一瓢なき
あやしのすまゐよせよしおし、難波入江のあし
月を見るきさめ、俺ぞする海士の子とて、猿猴が月
となへしゝ心のことく、蟷螂が斧をとれて、竜鉄
乃蚤衰不常を仰もせん事、心まりかるにいふへよし
萬の言葉をつゞりて、可笑記と名つけらる

大津郡本宮

巻五闕

西遂庵所蔵

大津郡本宮
国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号　京-295
ガラス使用

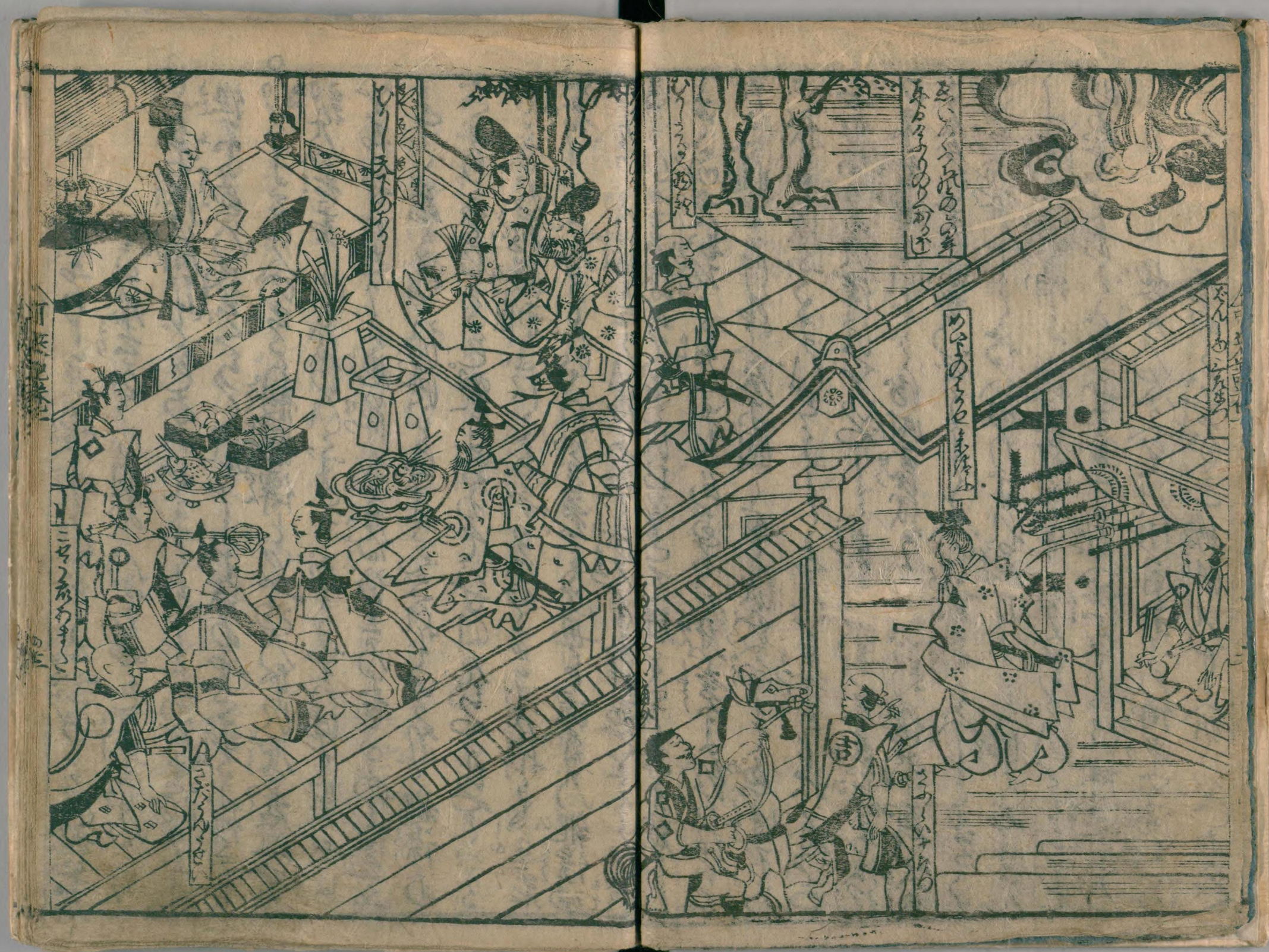
可笑記巻第一

○むかしさる人のいへるは我親類つらのともがら年寄衆の名をまゝ古きよりえらぶ器量ありてまれに人の心も(?)みな是れ我とのふるまひしそれより天下の博士なれ(?)えもんてからまことに武翻(?)文武の正道あり(?)やうもん(?)云る事をしり是をちりて王法を継ぐ不思(?)るよ月と我古今よりを天下侍の家を次第に教ちて累代の政法を知らしるは仁義礼と云人よく判(?)義旅(?)録すて利欲はおそろしき事よろりすまことはいへるは我とそれをもそかるうけ[illegible]乃孔子の関や唐まで[illegible]の延喜式もと

[illegible]めて我はおそれて継[illegible]たれとりそれ[illegible]老おほく思ひおもひめぐらし思案よりかりかたき[illegible]とけ[illegible]不圓く重くは教へして悪逆不忍乃[illegible]ますゝしくとんと身寺より外道とやおりはじめは仏法をこの[illegible]不慈悲不仁智はゝ時[illegible]ばかりは新[illegible]邪悪不[illegible]さんゝもえ表裏のどうしても人の縁を[illegible]べしと云るをそ覚[illegible]人のいましめ[illegible]されなずしく[illegible]じ[illegible]蔵[illegible]痛してちょ字はやまかりぼかちらひともちうど[illegible]書と継[illegible]くまゝ果がせうまち人[illegible]遠[illegible][illegible]是から[illegible]人の[illegible]文字[illegible]用[illegible]仏[illegible]傷[illegible]のくらしかれ[illegible]用[illegible]一[illegible]師[illegible]のあるべし

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号　京-295

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295
カラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』 請求記号 京-295

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

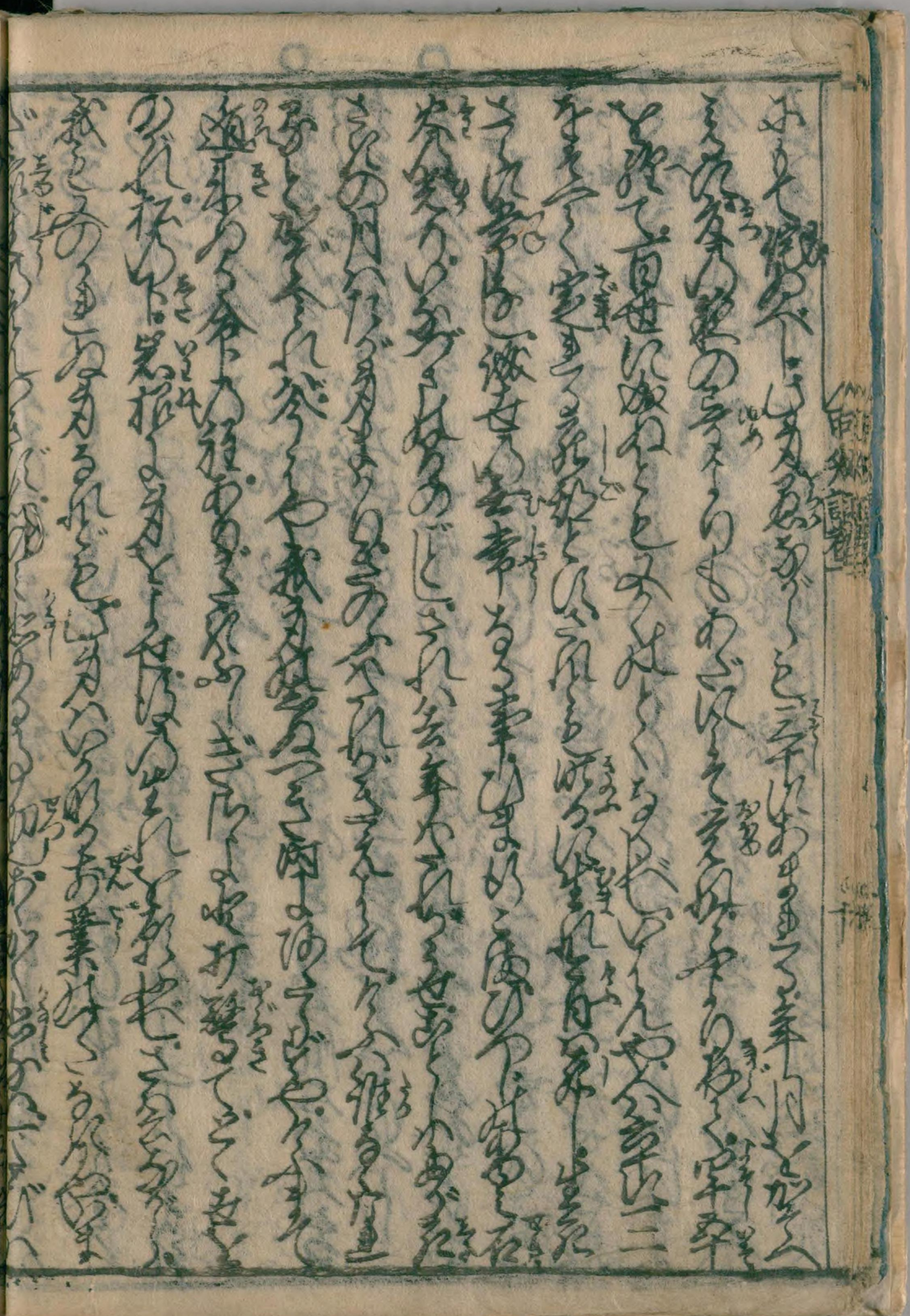
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『可笑記』 請求記号 京-295　　ガラス使用

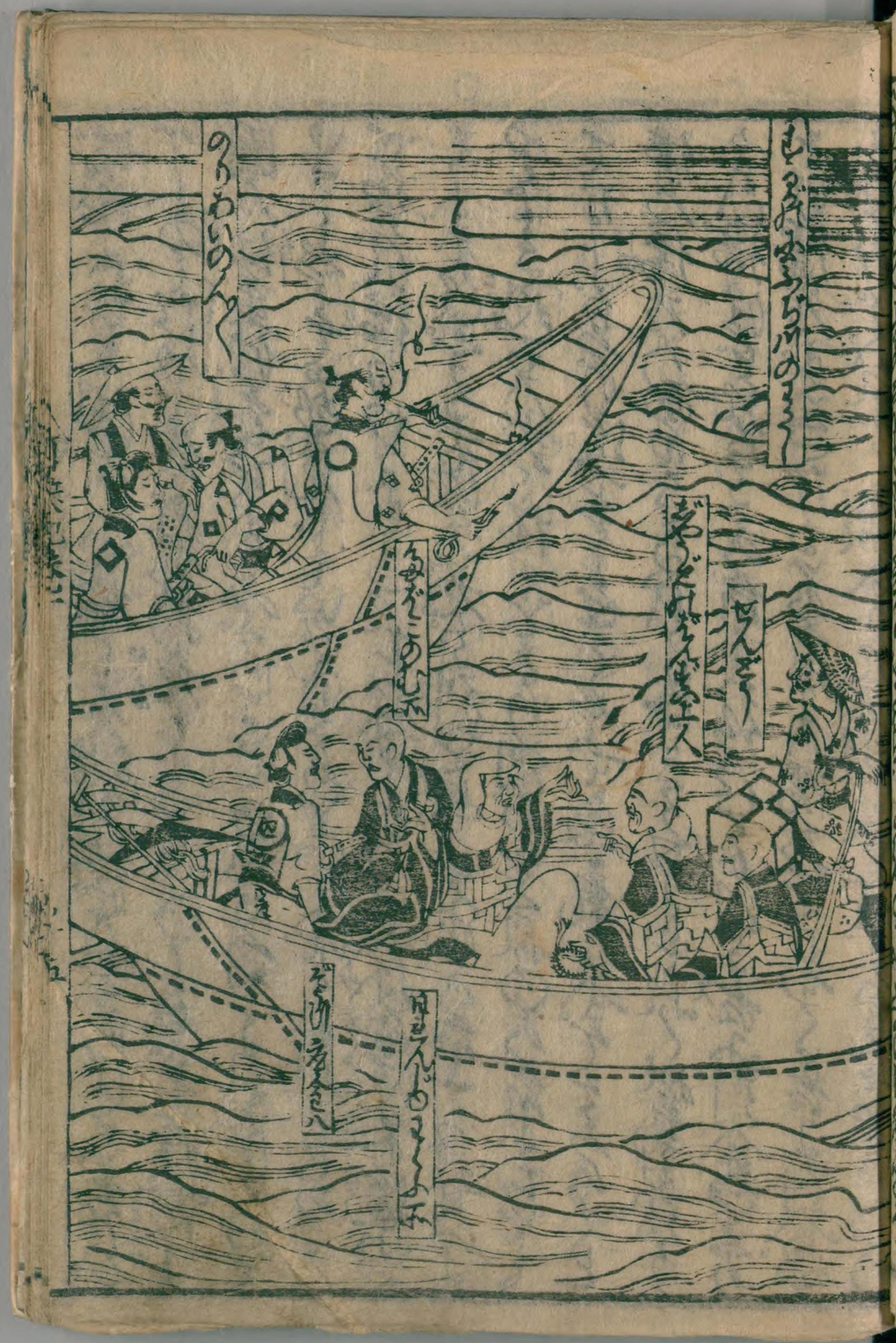
国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

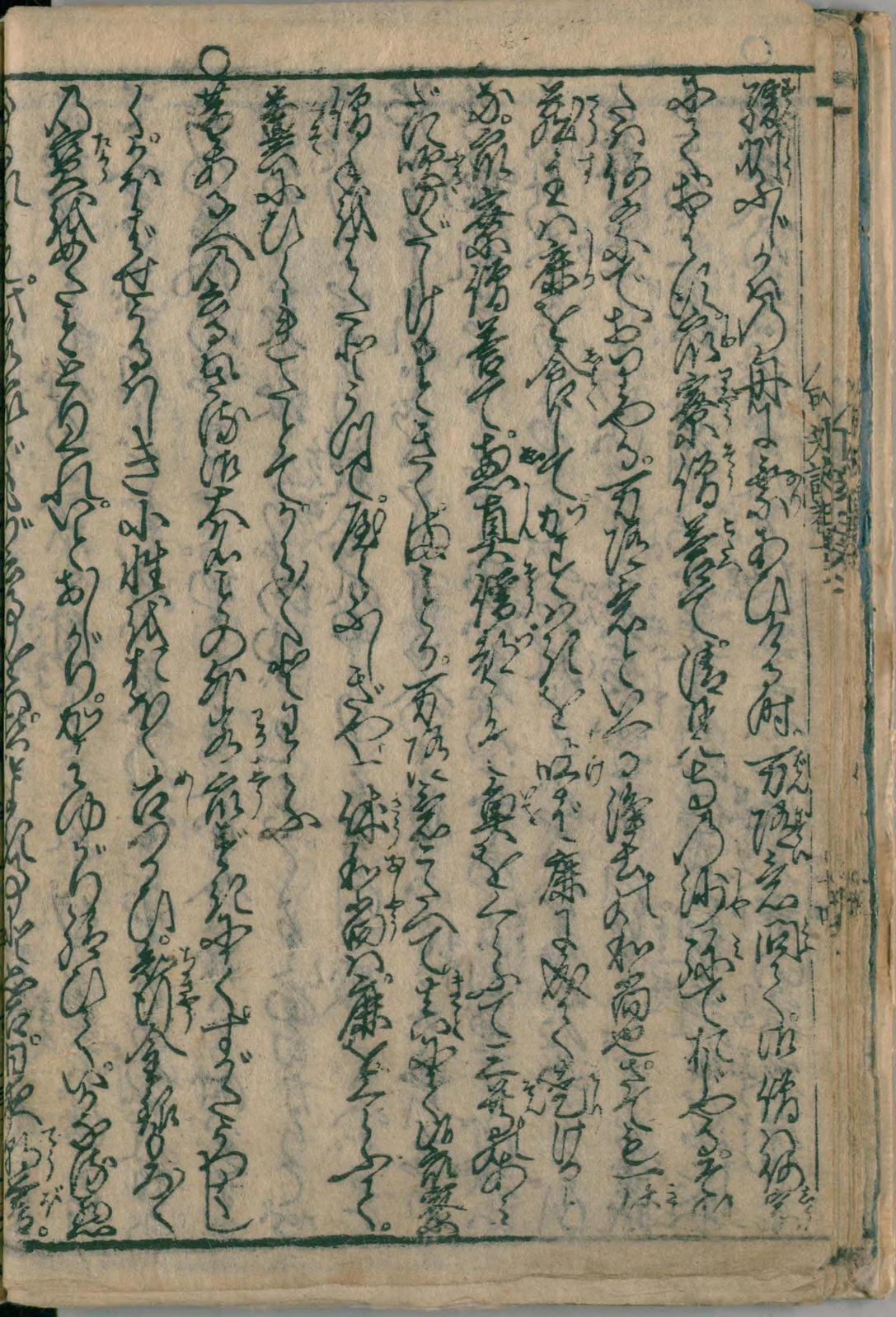
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

ガラス使用





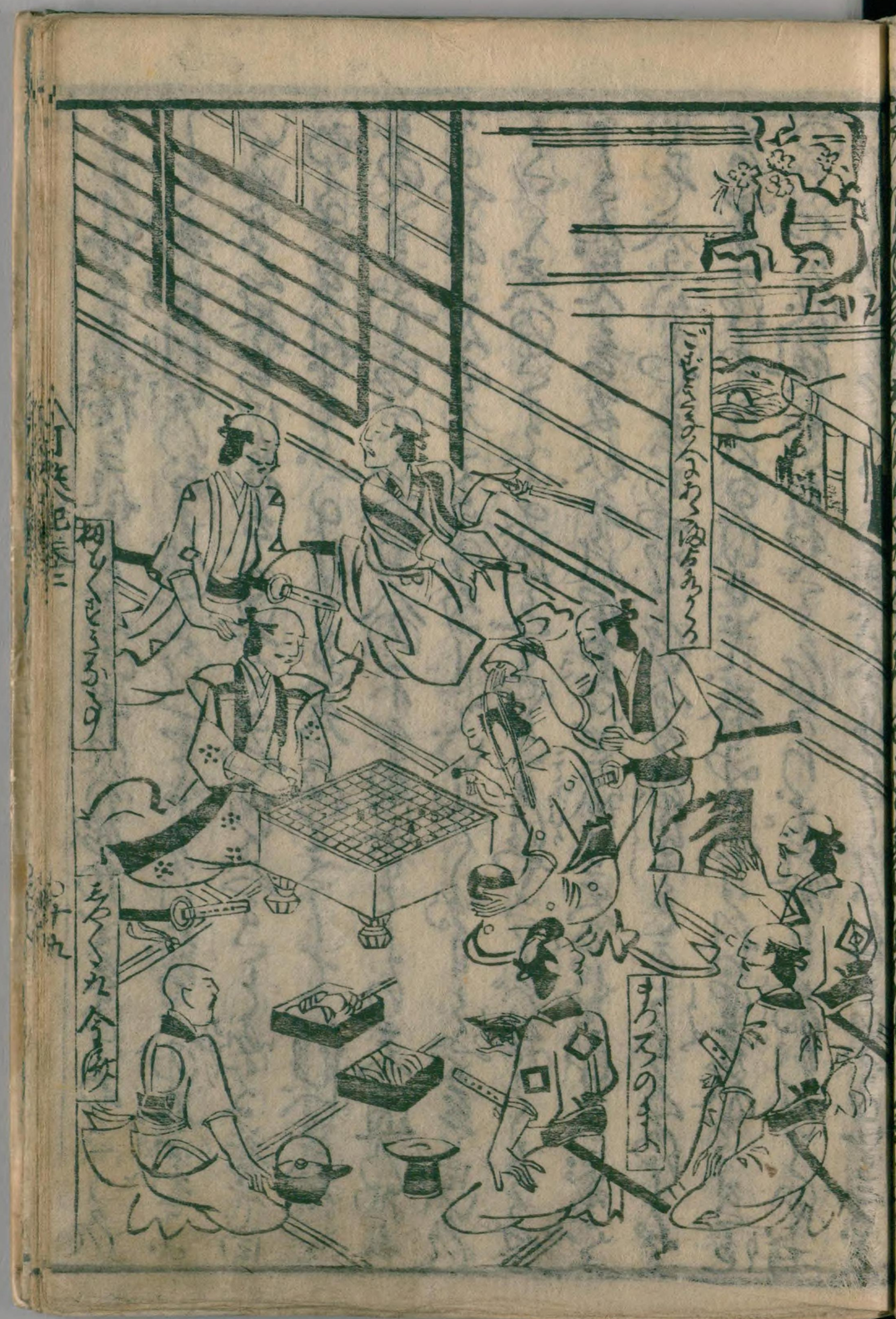
国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号　京-295
がうス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295
力ラス使用



国立国会図書館　タイトル『可笑記』 請求記号 京-295

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号　京-295
カラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号　京-295
カラー使用

うらぶれけるにしきなふるまひいはの器さ。わろき庭はいづれか様がたの法度
ある。角あるも。能はふくゐめでたやせんずまことに人のためしかり。またく
乃料理てふるまひ。月刀人気ん遊山をこのむなど。これ拙き道
猶を法し器ありもなし。かくして猿楽乱曹にお
ばりなどは器あれく。ず文学利発のものでさへのへまずたま
しそ遊山活計をなすとふるまひさ。いかにもよろしきひとあ
ざけらるゝ様なるけるめでたしそれ好む事なくいかにもへりくだりひさしき謗
肴でおあらし。文人は器物あり。されど我する稽古の蕓能をた。く
たまふりかあるまへ自身と交めてかつまされそれやのとなれ男と
たるはそ利発るてゐるせやいづれもそうにくこゝにいへり。
たてゝ世古海おおたしめと座の気が得くがわいせん
ひとのふおしわそなしいづれ頼る。大好乃すぐ。くを事
ひれそ老者が御人。浅くとも治じ。ことし。そうし気き。かく事がるはそれよ

人をもうるかめなしけまくるとしのまゝ動り掛毎あるくゝも
明ある心道動まれなきり上めるる人をいかむる神りて
ひやうるまゝ上る秋ゝるまへ下めなるりめとおぼやうしくか
てもとのまゝしくまんず利にして技芸能と聞ぬすもり
さうし小袖まかりてちやくせしとびのきさうい侍乃蕓能
あまり上手するもいるねすあてゝ利発そてあとめいま
そうぞうらと利根やうなるは仕ごちもせねなうなかり。三十三
同芸と誤る我りとうんなんなけ鉄炮とうり相ぬまれ。
ものつ利口とひくも天下もおね村よりいまる。獣とうといひつる事
寛大せうやうのむきしきる紙損ひくらくらゝせんとぬ数くの気
のさま一いなる風情ともしてずらうゝ海よりもはくめ乱

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号　京-295
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号　京-295
力ラス使用

家風昔より末々まで邪見おほし、いたづらに昔の今迄にて勝人の
すくなき事主君は仕へ人も生れつきさかしき者ども、よきよき家の
悪作法どもふかく悪見にちがひ、是わざはひのまづ第一なり、かくのごとく
むかし譜代にて、無数なるかれらの方の悪の道おほく、それより仁者なく悪人
の家なかるべき事なし、今の悪人ともみえずして仕へ人の無心なるものかはりとも
若きころ病人あり、御目よく物知顔にあやしく思ひ、わざはひに迄
そめぬれば、さまざまの風になりて、限り(?)道の上にむすびて
てこれは其末をみるに、かへし身の毛いよだつばかりなるなり、
此よしをかくしたとへていはゞ、わが身のかくれなきことを
ゆかしく十五(?)にて、あるは昔人の中にはじめてもえして しね
若者の人はいふ、盧(?)医、名医、扁鵲、河間、東垣、仲景、丹溪など

源とおもふべし、悟り無きを身をおさむるは性ありとも、今の人はさ
ゆく文字が[illegible]たる國をおさむるは、根源なかるべき事なれ
若き人の云、今の世の中の万民には、只主君の智恵のうへにあるべき
らは悪き縁と離縁にも及ばず、武にもまされり、あるは
くらき類をとききかすべきは悪き縁をもつて縁を離れしむべきなり、かれ
聖人のでは、ますます悪しくて楽しめることのまゝなりとて、されば身
桐國伸といふ[illegible]、悪縁はこれを生れて逢ひこの縁ふかく
ん[illegible]
かるべし[illegible]
て利潤[illegible]
あしき[illegible]

く閨よるひるかくれなく、何がな慰みをとめ憐しとて
命終る時、其身一生の悪念は須臾の間なりと云ふ、堂塔寺
建立し、僧法師を供養したる功徳によつて、彼須弥の台に至り
て、魂は生れかはりて、欲界の天人の宮に生れ来て、果
報とうけて、終には何ほどか、又地獄へおちたる事、あやまりなかるべし
も、某は栄花栄耀にほこり、みめかたちうるはしき女房を
よびむかへ、あまたの財宝金銀米銭を貯へ
念願このんで、無縁の者に施し、其まゝ又百姓
町人その外人に対して、我まゝ気随をふるまひ
慈悲の心もなく、欲心つよくして
まかせて三男を与へ、生死の流転にしづみ、六道をめぐる

猛悪極悪の罪人とは、我身の上なり
ただ悟りの心をもつて、一生の間、其身二生の悪念
を滴めて、一念に成仏得脱すべし
未来世に至りて、善悪の業のむくい
を、地獄におちて、一時の世に生れ来る
かくのごとし、苦楽の報いは、前世の因果によるなり
ことに天下の楽み、栄花のために、唐土天竺に至るまで
男女老若の、貴賤をえらばず、報いをうけて
命終る時は、其身のおもふまゝに
めでたく成仏して、極楽浄土へ生れ、天上の
よりきたる、仏菩薩の聖衆、来迎して現在未来

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』 請求記号 京-295　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295
ガラス使用

なくわんや父は何事によくする人ぞ子細[illegible]世に有ける人の
もちいざる事[illegible]おほくあれども[illegible]道すら一生[illegible]
家をもちて[illegible]道に[illegible]心[illegible]
らんや父母孝行[illegible]
[illegible]理にて[illegible]今の世の中[illegible]或は
てられ悪逆非道[illegible]或は
まつりごと[illegible]一生のうち[illegible]
てもなく家をかまへて[illegible]
非道の人[illegible]天命[illegible]文
毎[illegible]父母[illegible]
胴[illegible]父母孝行[illegible]
[illegible]

善[illegible]邪[illegible]
[illegible]大国[illegible]
利[illegible]邪[illegible]
[illegible]文武[illegible]
[illegible]道[illegible]
[illegible]将軍[illegible]時[illegible]高祖[illegible]
[illegible]
[illegible]天命[illegible]
命[illegible]
[illegible]
[illegible]侍[illegible]

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号　京-295
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』 請求記号 京-295　　ガラス使用

わしまかりなれは其身は入ぬる故に一天下も出はいて[illegible]
乃蒙求[illegible]当世あるもの生まれは鐡湯と同しき事
むやみに上手と人のなる故に益なきことを欲求無用な
金銀を蓄へたるのみを好みしてなまじひの情をしめ[illegible]
く儒者の書を読み学問をもて[illegible]おのおの[illegible]
さし出しされからそ大剛[illegible]
きりそうのせんと[illegible]おそれ[illegible]海へ
[illegible]尾上[illegible]一天[illegible]納
うちはまつ[illegible]ことせまりて[illegible]
[illegible]
る[illegible]

[illegible]
日[illegible]
[illegible]明日[illegible]
[illegible]
[illegible]侍[illegible]貴[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』　請求記号 京-295
ガラス使用

もろこしのためしをいふに人の身より銭をいだしてひむきのかたりてうちはめまゐらせ
て金銀をとり集むるを悦しめ此気に金をうけとれは欲
身をころす鄙しき女房も加様とともに出世をやと志すくする
此銅めを得て吾くを生んやかくて天下万民と共に謀ざ身
口かくしも後の主宰の者あかり欲のために自他の見わかちなく
くらき胸の心郷謗物を好んで角ぎ恥辱をもおぼえず甚
しくは此欲にて恥辱を恥とし一国のうち用ゆる事甚多
らんや但仏法にはむさぼりの根源は欲にあり心と言へ
ば生得身の様をば子孫の利欲といふ物へ強ふ知
ぬ金銀あつめりし揃へ出す非へもわからん身ハ之の身
どをとうの命を惜まず生死の言ハ万悪逆ふかるる礼

身命を擲捨いのちの事は思ひもよらず其名は老の出候乃
事を侍るうちおろそかに我人の内よりおもふに命あたら老とげかに主宅
乃道ほとけに住さりしも徐に心ぐんとりて身を以命を借りて
唐の龍逢比干伯夷叔斉伍子胥など皆ぬすみの欲泥をさ
房信長谷の義时乃老若男女の侍がたの身と
抛命を抛て誅せられし忠義の感深き事あめのしたに雖たの
りまさる兵のいさぎよき人は天日本におゐても主君の
ためを深くおもひて死を恥ず刑よりも遁世せし也人
あけそぐ命をすてられけしはいくばくの国の為にこそ
侍め人の命の百性以下を金のあつめ給へるしめまよはせて金銀
米穀をのこらず集めおゐて家の中の名聞のみ甚をなし
ぞうまくふくる身命はくろう借しまるるものとをまむ人のあり

やさしく思ひよりてはべりしその弟なる人はおほそうなり
かねてより人にくらべおとりおはしませしに筆
書ことは人にまさりて申さるべきさまなりとも詠歌は三首
富もひさしからざりけるもさぞあらんかし母は同じ弟なれど
筆跡の風流はせんかたなれども出来ぬる詠歌は絶ぞなる
むかし右大臣家にも筆あまりけれどもまさぞとて
付くるものをとりわたしけるもすでに生れつきて後悔あらん
あるかのしられぬ浜にそありしめづらしき鸚鵡ぞ是におはすなる
いつか庭にてまたとこしなへにきぬる浜にと云ひつるはこれ
も廣大な庭にて海のごとくなるにありけるも上を見ておもしろかる
さへいかにまちはされたるを紙まつる程ありてそれよりもあはれ
まはれ国かくれなくりけれは貴くおもひ

ながれ渡りとをされるところや。又ふるきさうしにも
筑波根の峯よりおつるみなの川ぞ積りて淵となる
このみなの川は常陸の国にありけるがなかの川とて広くながれ川お
つる川の水上は筑波山の峯よりおつる、藤井の淵ま
で宗なりけり。さそのしたしき親とも、ひへまかん
そめし人のおもひをば、いかにもかのおほせのごとく
道なれども、その面影をとどめ、みづからはやくこひ
心のあるうへは、深くもかきつけて、つらきをば見すてし
なれば命は積るかひ、大きなる淵のごとくひとつなれ
なほしかり、もしこれにつきてそんぬるかな

可笑記一之巻終

ヒ+ヌ-1

京
4
295

国立国会図書館　タイトル『可笑記』 請求記号 京-295

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『可笑記』 請求記号 京-295

ガラス使用